

異なる霊の現象に要注意！

1. 使徒2章の間違った解釈から始まった「トロントブレッシング」

御言葉に、書かれていない解釈を付け加えて新しい教えを広めることは、異端化につながる危険があります。使徒2章のペンテコステの時、「甘いぶどう酒に酔っている」と批評した人がいたことから、聖霊に満たされると「酔っぱらったように、笑ったり泣いたり、叫んだり、倒れて震えたりする現象が現れる」という解釈が、トロントから世界中に広まりました。

しかし使徒2章には、「みな聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国の言葉で話し出した(2:4)」とあるだけで、異言以外の現象については記されていません。エラム・メソポタミア・カパドキヤ・ポント・アジア・エジプト・リビヤ・ローマなど、天下のあらゆる国から来ていた敬虔なユダヤ人たちは、ガリラヤの人々が諸国の言葉で「神の大きな御業」を語るのを聞いて驚きました。外国語を知らない弟子たちが異言で説教し、福音を解き明かすのを聞いたからです。

ペテロも異言で語っていましたが、「酔っている」とあざける言葉を聞くと、すぐに反応し、ユダヤの言語で応答しました。異言を理解できないユダヤ人たちに、母国語で神からの言葉を語ったのです。そして「わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し…」というヨエル書の預言が実現したのだと説明しました。メシア・イエスにより罪の贖いが完成し、新しい契約が実現して聖霊が注がれたことを、神から預った言葉で解き明かしました。

聖霊に満たされた弟子たちは、母国語でも外国語でも、冷静に悔い改めのメッセージ、神からの預言を語ったのです。人々はその説教を聞いて心を刺され、悔い改め、3000人がバプテスマを受けました。そこには、トロント現象に見られるような、立つことも座ることも聖書を開くこともできない、自分で制御できない酔っぱらいのような体の反応も、けたたましい笑い声や動物のような叫び声、異常な混乱状況も読み取ることはできません。泣く・笑う・叫ぶという感情的な表れや、倒れる・震える・走り回るといった身体的反応は、「聖霊に満たされた証拠」にはなりません。それらの反応は肉の反応、個性の現れであり、霊性や霊的成長とは関係ないと思われます。

聖霊は、主を知る知識と主を畏れる霊(イザヤ 11:2)であり、信者の頭脳に働きかけ、知性を開き、福音を明らかに理解させて下さいます。罪について義について裁きについて世に誤りを認めさせ(ヨハネ 16:8)、イエスの御霊としてキリストを証し、イエス様の栄光を現わし(ヨハネ 16:14)、「イエスは主である」と告白させます(1コリント 12:3)。知恵と啓示の御霊として、「心の目がはっきり見え、神の召しによって与えられる望み・聖徒の受け継ぐ栄光のすばらしさ・信じる者に働く神の力の偉大さ」を知ることができるようにして下さい(エペソ 1:17~19)。真理の御霊としてすべての真理に導き入れ、やがて起ころうとしていることを示し(ヨハネ 16:13)、助け主としてすべてのことを教え、すべてのことを思い起こさせて下さいます(ヨハネ 14:26)。

聖霊がキリストの御霊であり、天におられる第2位格の神であるキリスト・イエスを証する霊であると信じ、「神は混乱の神ではなく、平和の神である(1コリント 14:33)」ということを知っているなら、トロント現象は神からのものではないと見分けることができるでしょう。トロント系の酔っ払い現象は、未信者を躓かせ、救いから遠ざけるものであり、そのような現象を「聖霊の働き」と呼ぶのは、聖なるキリストの御霊に対する冒瀆ではないでしょうか？

2. 「霊に酔う」は喜ぶべき体験ではなく、憂うべきこと

ヨブ 12：25

彼らは光のない所、やみに手さぐりする。神は彼らを酔いどれのように、よろけさせる。

イザヤ 19：14

主が、彼らの中に、よろめく霊を吹き入れられたので、彼らは、あらゆることでエジプトを迷わせ、酔いどれがへどを吐き吐きよろめくようにした。

イザヤ 29：9～10

のろくなれ。驚け。目を堅くつぶって見えなくなれ。彼らは酔うが、ぶどう酒によるのではない。ふらつくが、強い酒によるのではない。主が、あなたがたの上に深い眠りの霊を注ぎ、あなたがたの目、預言者たちを閉じ、あなたがたの頭、先見者たちをおおわれたから。

エレミヤ 13・13～14

あなたは彼らに言え。『主はこう仰せられる。見よ。わたしは、この国の全住民、ダビデの王座に着いている王たち、祭司、預言者、およびエルサレムの全住民をすっかり酔わせ、彼らを互いにぶつけ合わせて砕く。父も子もともどもに。——主の御告げ——わたしは容赦せず、惜しまず、あわれまないと、彼らを滅ぼしてしまおう。』』

*酔わせることは神様の裁きの方法の一つです。

エレミヤ 23：9～12、15

預言者たちに対して——私の心は、うちに砕かれ、私の骨はみな震える。私は酔いどれのようだ。ぶどう酒に負けた男のようになった。主と、主の聖なることばのために。国は姦通する者で満ちているからだ。地はのろわれて喪に服し、荒野の牧草地は乾ききる。彼らの走る道は悪で、正しくないものをその力とする。実に、預言者も祭司も汚れている。わたしの家の中にも、わたしは彼らの悪を見いだした。——主の御告げ——それゆえ、彼らの道は、暗やみの中のすべりやすい所ようになり、彼らは追い散らされて、そこに倒れる。わたしが彼らにわざわいをもたらし、刑罰の年をもたらすからだ。——主の御告げ——・・・それゆえ、万軍の主は、預言者たちについて、こう仰せられる。「見よ。わたしは彼らに、苦よもぎを食べさせ、毒の水を飲ませる。汚れがエルサレムの預言者たちから出て、この全土に広がったからだ。」

エレミヤ 25：27～28

「あなたは彼らに言え。『イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。飲んで酔い、へどを吐いて倒れよ。起き上がるな。わたしがあなたがたの間に剣を送るからだ。』もし、彼らが、あなたの手からその杯を取って飲もうとしなければ、彼らに言え。『万軍の主はこう仰せられる。あなたがたは必ず飲まなければならない。

*主の恐ろしい裁きの言葉を聞いたエレミヤは、ショックで酔ったようにふらふらになりました。

エレミヤ 48：26

彼を酔わせよ。主に対して高ぶったからだ。モアブはへどを吐き散らし、彼もまた物笑いとなる。

ハバクク 2：15～16

わざわいだ。自分の友に飲ませ、毒を混ぜて酔わせ、その裸を見ようとする者。あなたは栄光よりも恥で満ち足りている。あなたも飲んで、陽の皮を見せよ。主の右の手の杯は、あなたがたの上に巡って来て、恥があなたの栄光をおおう。

黙示 17：1～2、5～6

また、七つの鉢を持つ七人の御使いのひとりが来て、私に話して、こう言った。「ここに来なさい。大水の上にすわっている大淫婦へのさばきを見せましょう。地の王たちは、この女と不品行を行い、地に住む人々も、この女の不品行のぶどう酒に酔ったのです。」……その額には、意味の秘められた名が書かれていた。すなわち、「すべての淫婦と地の憎むべきものとの母、大バビロン」という名であった。そして、私はこの女が、聖徒たちの血とイエスの証人たちの血に酔っているのを見た。

イザヤ 51：21～22

それゆえ、さあ、これを聞け。悩んでいる者、酔ってはいても、酒のせいではない者よ。あなたの主、ご自分の民を弁護するあなたの神、【主】は、こう仰せられる。「見よ。わたしはあなたの手から、よろめかす杯を取り上げた。あなたはわたしの憤りの大杯をもう二度と飲むことはない。

*主が憤りの杯を取り除いて下さるまで、異なる霊に酔ったり、酔わせたりし続けるのでしょうか。

3. 終わりの時代に生きるクリスチャンは身を慎みなさい！

ペテロの第 1 の手紙では、終末時代に生きる信仰者は「身を慎む」ことが特に重要であると、3 回にわたって忠告されています（1：13、4：7、5：8）。新改訳聖書では、

1 章 13 節 「ですから、あなたがたは、心を引き締め、**身を慎み**、イエス・キリストの現れのとときあなたがたにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。」

4 章 7 節 「万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、**心を整え身を慎みなさい。**」

5 章 8 節 「**身を慎み、目をさましていなさい。**あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。」

1 章 13 節の「心を引き締め、**身を慎み**」を他の聖書で見ると、

- ・「心の腰に帯を締め、**身を慎み**（口語訳）」「いつでも心を引き締め、**身を慎んで**（新共同訳）」
- ・ Therefore gird up the loins of your mind, **be sober**, and rest your hope fully upon the grace that is to be brought to you at the revelation of Jesus Christ; (NKJV) …酔ってははいけません。
(sober は、酔っていない、しらふの、節度ある、真面目な、冷静な)
- ・ Therefore, prepare your minds for action; **be self-controlled**; set your hope fully on the grace to be given you when Jesus Christ is revealed. (NIV) …自制していなさい。
- ・ So then, have your minds ready for action. **Keep alert** and set your hope completely on the blessing which will be given you when Jesus Christ is revealed. (TEV) …油断しないように（用心深く）

4 章 7 節「祈りのために、**心を整え身を慎み**」は、

- ・「**心を確かにし、身を慎んで**（口語訳）」「**思慮深くふるまい、身を慎んで**（新共同訳）」
- ・ But the end of all things is at hand; therefore **be serious and watchful** in your prayers. (NKJV)
…（祈る時には）本気（まじめ）になって、よく見張り（用心し）
- ・ The end of all things is near. Therefore **be clear minded and self-controlled** so that you can pray. (NIV) …（祈れるように）思考を明瞭にして、自制し
- ・ The end of all things is near. You must **be self-controlled and alert**, to be able to pray. (TEV)
…（祈れるように）自制し、油断せず

5章8節「身を慎み、目をさましていなさい。」は、

- 「身を慎み、目をさましていなさい（口語訳）」「身を慎んで目を覚ましていなさい（新共同訳）」
- **Be sober, be vigilant;** because your adversary the devil walks about like a roaring lion, seeking whom he may devour. (NKJV) …be sober は、酔っていないで（しらふで、真面目に、冷静に）
vigilant は、絶えず警戒（注意）して、油断しないように
- **Be self-controlled and alert.** Your enemy the devil prowls around like a roaring lion looking for someone to devour. (NIV) …自制し、用心深くしていなさい。
- **Be alert, be on watch!** Your enemy, the Devil, roams around like a roaring lion, looking for someone to devour. (TEV) …油断なく、見張っていなさい！

*ペテロは、心を整え、思考を明瞭にし、敵を警戒して目を覚まして祈り、身を慎み（まじめに、自制し、絶えず警戒し、油断なく見張って）、キリストの再臨を待ち望むように教えています。

エペソ 5:18 「酒によってはいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。」
ガラテヤ 5:22、23 「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。」

4. 惑わしの時代だから、霊を見分ける必要がある

トロントの霊的現象については様々な調査がなされ、ヒンズー教のクンダリーニ（「蛇の力」と言うヨガに働く霊）の現象であると結論されています（ヒンズー教から救われた人は映像を見てすぐに見抜くそうです）。特徴は愛を感じる事、身体の癒し、エクスタシー、抑えられない感情的・身体的反応などです。ニューエイジャーから救われてきた人たちが、東洋神秘主義宗教やオカルトの影響を持ち込んだこともわかっています。トロントの霊的影響は、多くの働き人に引き継がれ、多くのバリエーションを持ってさらに拡大しています。

SHOCKING DOCUMENTARY - False spirits invade the church - KUNDALINI WARNING

Part 1 <https://www.youtube.com/watch?v=eBpw2oQrvMM> トロントとクンダリーニの比較

Part 2 https://www.youtube.com/watch?v=BCcGaTRwG_4 ペンサコーラ、レイクランド

Part 3 https://www.youtube.com/watch?v=dWeUNoR30_0 J・S師、B・J師、R・J師、IHOP

ソーキング・プレイヤー（部屋を暗くして静かな音楽を流し、キャンドルを灯し、香を焚き、リラックスして感覚的に霊と交わる）は、トロント発クンダリーニのニュー・バージョンです。単調なメロディーと短いフレーズを繰り返し口ずさむ瞑想的祈り（カトリックや異教の方法）も、カリスマ派や第3の波系の教会で取り入れられています。知性を働かせて祈ることをやめ、受け身の状態になると、脳波が変わって異質な霊を受け入れやすくなるので大変危険であると指摘されています。

クンダリーニは、聖霊派のみならず福音派にも浸透しつつあります。異なる霊が引き起こす現象に多くのクリスチャンが惑わされ、御ことばを忘れ、癒しや霊的体験、天使の出現や天国体験を求めて走り回っています。聖書を体系的に教えず、間違った教理に基づいて霊の賜物、霊的現象、感覚的・感情的・身体的体験を追求する教会は、キリスト教の見分けミニストリーや世界の見張り人たちからは「キリスト教系新興宗教」と分類されています。現代は御言葉の飢饉の時代、ネオ・グノーシスとの霊的戦いの時代です。教会から異なる霊の影響が排除されますように！

2015年7月 By Ishikawa